

■ 令和元年7月25日 南部・東部地域振興対策特別委員会県内調査

1 郵便名柄館（御所市）

【調査目的】地域活性化の取り組みについて

【調査概要】郵便名柄館における地域活性化の取り組み等の概要説明を受ける。

<説明の概要>

- 名柄地区は、金剛葛城山麓の古道・葛城の道（南北13km）の中ほどに位置している。
高野街道と伊勢街道が交わる交通の要所でもあることから、江戸時代には宿場町として栄え、昭和の初め頃までは約80軒の商家が軒を連ねていた。
- 名柄地区の活性化を目指し、今から100年ほど前に建てられた旧名柄郵便局舎を改修し、「郵便名柄館」として整備され、一般社団法人吐田郷地域ネットが運営している。
郵便に関する資料の展示コーナー、庭園があり、併設の「Tegami Café」では、お米や野菜を地域産にこだわって提供している。観光客や郵便ファンの方、地域の方などが訪れ、地域のコミュニティの場にもなっている。
- 整備に至る経緯について
 - ・平成23年4月に、名柄地区の活性化を目指し、地域住民と行政で交流拠点となる旧名柄郵便局舎利活用の検討を開始。
 - ・平成24年、平成25年に、奈良県の事業である「はならあと」を畿央大学の協力のもとで開催。活性化に向けて地元住民の機運が高まる。
 - ・平成24年11月に、旧名柄郵便局舎（同敷地内の家屋・蔵なども含む）について、所有者より地域の活性化のためにと土地及び同敷地内の建物すべてを無償で御所市に貸与。
 - ・平成26年4月～10月に、旧名柄郵便局舎部分について、大規模改修工事を実施。所有者の親族であり、地域ゆかりの著名人である堺屋太一氏から高額な寄付を受ける。
 - ・平成27年3月に、「郵便名柄館」として、内装（郵便に関する資料の展示コーナー、カフェスペース）及び庭園部分の整備が完了。
総工費約4,400万円。
 - ・平成27年5月に、「郵便名柄館」及び併設の「Tegami Café」が一般社団法人吐田郷地域ネットの運営によりオープン。



2 奈良県森林技術センター（高取町）

【調査目的】奈良県森林技術センターにおける取り組みについて

【調査概要】奈良県森林技術センターにおける取り組みの概要説明を受ける。

<説明の概要>

- 奈良県森林技術センターは、総務企画課、森林資源課、木材利用課、森林管理市町村連携課を設置しており、県民や県内事業者からの森林や木材に対する要請に応じて、先導的な研究の推進と実用的な技術の開発を行い、県内の林業・木材産業の振興、健全な森林づくりに寄与するため試験研究などを行っている。

●主な取り組み及び成果について

人工交配による「少花粉スギ」の種子生産（試行）について

- ・森林技術センターでは、平成28年度から人工交配による少花粉スギ種子の試行生産に取り組み、平成28年度0.5kg、平成29年度2.0kgの種子を得た。

バカマツタケの人工栽培による継続発生の成功について

- ・平成27年度から国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所と共同で「高級菌根性きのこの栽培技術」の研究を行った。
- ・平成30年2月に全国で初めて、人工的に林内でバカマツタケ菌を増殖させ子実体（きのこ）の発生に成功したことを発表した。
- ・また、発生した場所を継続調査したところ、翌年に複数の子実体が発生しているのを確認できた。

奈良県産優良スギ材を用いた3種類の弦楽器の完成について

- ・平成31年3月に奈良県産優良スギ材を用いた3種類の弦楽器（バイオリン1挺、ビオラ1挺、チェロ1挺）が完成した。
- ・各弦楽器の表板、カ木、魂柱には、川上村産の樹齢250年以上のスギを使用している。
- ・音響試験により、音の放射特性（音の拡がり方）を測定したところ、通常のスプルースを用いた弦楽器と同様であることが確認された。

奈良の木の防音フローリングの開発について

- ・県内企業（株式会社ホーテック）と共同で、防音フローリングの研究に着手し、県産スギ・ヒノキ無垢材で標準的な板幅110mmの商品開発に全国で初めて成功した。
- ・一般財団法人日本建築総合試験所で防音性能試験を実施したところ、一般的なマンション管理組合が定める防音基準「LL-45」を満たすことが確認された。

